

250120 第三回図書館学習会メモ

会の出席者は、遠藤代表・考える会メンバーを含めて23名。

先ず遠藤代表が「当日資料」により市の図書館構想を解説した後、参加者によるフリートークを行った。フリートークでの発言は以下の通り（発言順）

- ・取手図書館の老朽化は本当か？、本当に危険なのか？
- ・市の言う「にぎわい」とはどのようなものを言っているのか？
- ・戸頭公民館の図書室では本を取りやすい。取手図書館は活気がない。あたたかみのある図書館が望ましい。
- ・「若者は本を読まない」はウソ。小中学生は本を読むようになっている。大人には本を読む時間がなくなっている、とすることではないか。
- ・街に書店がない。読書難民が多い。図書館を地域住民にどのように定着させるかだ。
- ・図書館は駅前に一つあれば良い、と言う物ではない。公民館に小さな図書館を作り、それを中心に小さなコミュニティを作るのが良い。
- ・水戸図書館に行ったが、良くできている。庭など空間を楽しみながら本が読めるのが良い。
- ・廃校を利用して図書館を作ったらどうか。駅前の彩りのような図書館は要らない。
- ・取手図書館の元職員だが、取手図書館には限界がある。スペース（駐車場、子供スペース、学習室、その他）が狭い。
- ・そもそも市の構想は図書館からの発想から生まれたものなのか？。駅前は便利な場所などではない！。
- ・駅前に作るなら、利用者の層を限り、本館は別に置くのが良い。
- ・図書館が行政を豊かにするような構想が必要だ。
- ・駅前開発の一つの駒としての図書館なら、それは違う。
- ・市の構想では「飲み物を片手に好きな本を読む」とあるが、本の大切さを無視している。それをするならIT化で対応すべきだ。
- ・土浦図書館（一応直営）に行ってみたが、長居できない雰囲気がある。学習机があり、飲食ができるテーブルも多数あるが、高齢者には居心地が悪い。
- ・藤代図書館と取手図書館では雰囲気が違う。だれでもフラッと入れる図書館が良い。駅前で緊張しながら使うような図書館はダメ。わざわざ駅前まで出張るのは負担だ。
- ・公民館の図書室を増やす。図書の受け渡しはあちこちでできるようにする。駅前に行く方が大変（面倒）だ。
- ・和歌山県の田辺市の図書館に行ったが、周辺環境が重要だと感じた。
- ・取手図書館には問題もあるが、ボランティアとして助け合えば克服できる。図書館としての運動面では活発にできる。お金の問題はあがあるが、普通の家計では問題外だが。あたたかさ、コミュニティが重要。

- ・(藤代図書館がネーミングライツ適用で「城陽建設・藤代図書館」になっている事について)：ネーミングライツは大問題だ。図書館を作った人のプライドを傷つけている。
- ・それについては、藤代図書館の開設に関わった一人として、憤りを感じている。ボランティアには何の説明もなく、皆、怒っている。
- ・ハコ物作りが先なのか？。図書館は付けたりなのか？。利用者は誰なのか？。テーブルが全部埋まっていて使えない、と言うことにはならないか？。
- ・非住宅棟の敷地は狭い。公的資金を得るために図書館を利用しているだけではないか。

遠藤代表：

以上の議論を伺うと、身近なところに図書館があると良い、と言うことについては異論がないように思われる。本日のフリートークの結論として、次のような請願をする、と言うことではどうか。

●身近なところに図書館（本館・分館）がある街づくりを求める請願

- ・分館を増やしてほしい
- ・取手図書館を改修してほしい
- ・指定管理制度導入は止めてほしい
- ・ネーミングライツは止めてほしい

この提案について会場からは特に異論がなく、この学習会の総意として上記の内容の請願を行う事を決定した。請願の具体的な文言は、遠藤代表に一任する事に決定した。また、会場で請願者を募り、大枠を決定した。